

幼虫対策

食入孔からの刺殺（4月～11月）

フラスの排出孔からドライバーなどで樹皮を剥がし、食入孔を探ります。幼虫が発見でき次第、刺殺してください。食入孔を探索しても幼虫が奥深くにいるなどで発見できないときは、排出孔にエアゾール剤のノズルを突っ込み薬液を噴射します。



※樹皮を剥がすと樹体を傷めるリスクがあるので、慎重に判断ください。

被害木の伐採（伐採時期：9月～翌年4月）

被害木を伐採し、破碎あるいは焼却して適切に処分を行うことは、被害の拡散を防止する観点から、最も有効な防除方法のひとつです。また、伐採木の中にも幼虫が潜んでいるため、焼却等の適切な対応が必要になります。

（注意）伐採木の運搬について
破碎等の適切な処分のために、適切に逸出防止措置を講じた上で、伐採木を運搬することは、例外的に認められています。



本リーフレットへの問い合わせ先
堺市役所環境共生課

tel : 072-228-7440
mail : kankyo@city.sakai.lg.jp

※防除に関するより詳細な情報については、大阪府立環境農林水産総合研究所が公表している「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」をご参照ください。



特定外来生物

クビアカツヤ カミキリ

の防除にご協力ください



提供：埼玉県環境科学国際センター

クビアカツヤカミキリは、サクラ、モモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し、枯死させる外来カミキリで特定外来生物（※）に指定されています。クビアカツヤカミキリによるサクラ等の被害を食い止めるためにも、クビアカツヤカミキリの防除（駆除と被害予防）にご協力ください。

（※）外来生物法に基づき特定外来生物に指定されているため、生きたままの運搬、飼育等は、原則として禁じられています。

クビアカツヤカミキリによる被害のサイン

クビアカツヤカミキリの幼虫は、成虫になるまで2年ほど、樹木の中に潜んで樹木を食害し、ミンチ状のフラス（木くず）を排出します（12月から翌3月の休眠期を除く）。樹木の表面や根元に散らばっているフラスを見かけた場合は、その樹木の内部にクビアカツヤカミキリの幼虫がいるサインです。クビアカツヤカミキリの被害を発見し、拡大を防止しましょう。



提供：埼玉県環境科学国際センター

効果的な防除の方法とスケジュール

クビアカツヤカミキリの生態と効果的な対策



孵化した幼虫は、内部に侵入します。



内部を食害し、フラスを排出します



成虫は飛散し、被害を拡大させます

提供：埼玉県環境科学国際センター

対策	ステージ		概要
	幼虫	成虫	
ネット巻き	×	○	被害木にネットを巻いて、成虫の飛散を防止します。
駆除 薬剤噴霧	×	○	定期的に見回りを行い、見つけた成虫を直接駆除します。
掘り取り 薬剤注入	○	×	フラスの排出孔を探し、その中にいる幼虫を駆除します。
伐採・伐根	○	×	食害が進んだ被害木を伐採・伐根し、粉碎・焼却等を行う。

防除方法とスケジュール



成虫対策

被害木のネット巻き（10月～翌5月）

羽化した成虫の飛散を防止し、周辺への被害の拡大を防ぎます。また、成虫による産卵を防ぐ効果もあります。

必要物品

防虫ネット（目合い0.4～4mm）、ホッチキス、ひも、ガムテープ、ペグなど

▶ 対策方法

被害部位、あるいは保護したい部位が収まるようにネットを巻き付けます。
(目安：高さ2m程度まで)

ネット同士はホッチキスや針金でつなぎ合せ、木とネット上端はひもやガムテープで、ネット下端はペグで地面に固定します。

防虫ネットを樹幹に密着させると、成虫がネットを噛み切るので、樹幹との間に隙間を持たせます。

防虫ネット内での成虫の発生を定期的に見回ります。（週2～3回）



駆除、薬剤噴霧（6月～8月）

成虫を見つけた際は、その場でただちに踏みつぶすなどして捕殺してください。また、薬剤を使用すれば、成虫に触れずに殺虫できます。

使用可能な薬剤

ロビンフッド
ベニカカミキリムシエアゾール など

